

向陽中学校 学校運営協議会

第41号



Topics!

わくわくレッスン

9/4(水・3年生) 11(水・2年生)

講師 永井崇多宏さん・永井美奈子さん
小貫岩夫さん・小貫美樹さん
十亀章子さん(学校運営協議会 会長)

総合的な学習の時間や音楽科の単元で、プロの音楽家による合唱指導「わくわくレッスン」を2、3年生対象に実施しています。プロの音楽家から「響く声の出し方」を学び、自主的に合唱活動に取り組もうとする気持ちを育てることを目的としたカリキュラムです。当学校運営協議会の十亀会長を初め、地域住民である永井崇多宏氏・永井美奈子氏・小貫岩夫氏・小貫美樹氏に、それぞれパート別合唱指導をお願いしています。



レッスン風景

「学び合い」溢れる中学校区の基盤づくりに向けて

2024年度は、コミュニティ・スクールの制度化から20周年を迎える年でした。全国で僅かに4校からスタートしたコミュニティ・スクールも2024年度には公立学校の58.7%が導入するまでに普及しました。向陽中学校は、中でも制度化翌年の2005年4月にいち早く学校運営協議会を設置した伝統校です。

各学校区が展開するコミュニティ・スクールの取組は多種多様です。「ふるさとの学び」を柱とする学校区、子どもたちの困り感に寄り添い「学ぶ土台」を支える学校区、変化の激しい社会における「生き方」や「キャリア形成」を重視する学校区。いずれにも通底するのは、これからの社会を生きる子どもたちに「育みたい」「育てたい」と願う力や事柄を理解し合いながら、「学び」を創り、つないでいく営みであることです。

社会を生きる人にとって「学び」という意味を持つのでしょうか。例えば、「課題解決学習」と実社会の「課題解決」は異なります。「課題解決学習」では、課題に気づき、問いを立て、調べたり知恵を出し合ったりしながら、解決策を見出していく学びの「プロセス」が重視されます。一方の「課題解決」は、その課

題が抱える様々な現実を目を向けながら、解決策には責任が伴い、プロセスよりも「結果」が重視されます。

「学び」という「遊び」を取り入れることで、視点が「現実」の問題から「未来志向」の問題へと転換され、今ある立場や様々な制約を超えて、より自由で創造的な対話を生み出すのです。このことは、大人が結果を「教える」学習から、教員や保護者、地域の方々も子どもの発想から学ぶ「学び合い」への転換にもつながります。コミュニティ・スクールの大きな意義は、多様な立場にある大人が子どもの学びに目を向けることで、「未来志向」型の対話を生み出し、「学び合い」を創造していくプラットフォームとなることにあります。

向陽中学校は、今年度より高井戸第三小学校、永福小学校と連携して、三校の学校運営協議会委員による合同の協議会をスタートさせました。中学校区というつながりを持つことには、3つの意味があると考えます。一つ目は、各校区が展開する学びを縦につなぐことで、「学びの見通し」（今の学びが近い未来の何につながっていくか）や「学びの軌跡」（今の学びには何が活かされている



向陽中学校
学校運営協議会委員
東京学芸大学准教授

入江 優子

か）が感じられるようになることです。二つ目は学びを創る地域資源の広がりや横につなぐことで「学びの交流」や「学びの多様性」を生み出せることです。そして、三つ目は学びの縦横のつながりの中で、「創りたい学び」とそれを生み出す「創りたい地域」の対話が生まれることです。中学校区のコミュニティ・スクールのつながりは、現実社会に立脚しながらも「学び」という「遊び」が地域に広がる基盤をつくることになります。

予測困難な時代を生きる子どもたちにとって、育った地域は「立ち返る場所」です。そして、苦難に直面した時に「学び」に転換できる力は最も礎になります。向陽中学校区が、将来にわたって子どもたちの大きな拠り所となるよう、「学び合い」に溢れる基盤づくりを皆さんと一緒に進めていければと思います。



三校合同CS会議



左から、高三小 清水校長先生
向陽中 齋藤校長先生
永福小 難波校長先生



第5回 9/18 火

・2、3年生対象に、合唱コンクールに向けて「わくわくレッスン」が実施された旨報告があった。小中連携においても、各小学校も同じ講師から合唱指導を受ける取り組みを行うと説明があった。

・道徳授業地区公開講座について、今回は、朗読セラピーSwimmyによる朗読セラピー公演を鑑賞し、その後、各クラスにおいて、命の尊さを主題とした道徳の授業を実施した旨報告があった。保護者、地域住民、教員での意見交換会も実施された。意見交換や授業の公開を通じて、授業の質の向上などを図るとともに、学校・家庭・地域が一体となり、子ども達の豊かな心を育む道徳教育を推進していきたいとアナウンスがあった。

・不審者対応について、地域のパトロール強化依頼、職員の緊急体制の確認を行った。施設の防犯対策について、防犯カメラの設置など検討していく旨報告があった。

第6回 10/30 水

・養護教諭より、資料(「向陽中学校学校保健について」)に基づき、保健室来室状況やアレルギー等持病を持つ生徒に対する配慮について報告があった。本校における脊柱側弯症健診の方法と、プライバシーの関係性について、運営協議会として、モレア検査の導入を含め、教育委員会に配慮を要請することを検討するとした。

・オリンピックセンターにて、向陽祭が実施された旨報告があった。次年度も同様にオリンピックセンターにて実施予定と報告があった。

・下高井戸おおぞら公園にて開催されたすぎなみ舞祭において、向陽中ダンス部KOYO DANCE PHOENIXが、グランプリを受賞した。

第7回 11/22 金

・地域の交流行事である「町ぐるみ運動会」に、向陽中生がボランティアとして32名が参加した旨報告があった。

・教育課程上である体育の授業時間内に、事故が起きたと報告があった。学校側の対応について、聞き取りからすり合わせを十分に行う旨報告があ

た。安全指導・安全管理の確認、危機管理の意識を持つなど徹底して行く。

・本校ダンス部の部活動指導員を活用した授業支援の取り組みを、全学年保健体育科にて行う予定と説明があった。小中連携の取り組みにおいても、同部活動指導員による授業支援を行う予定。

・令和6年度、自立的・協働的な学校づくり、小中連携の推進について、三校のCS合同会議を開催し報告会を実施した。

第8回 12/17 火

・向陽中震災救援所訓練に中学生のレスキュー隊が3名、大学生1名参加と報告があった。生徒の参加を増やしていくことが急務であると同時に、この活動を通して、地域に顔見知りたくさん作ることができればとのことである。

・デフリンピック教育講演会に、生徒4名が参加した旨報告があった。都立中央ろう学校の生徒達との交流で、音のない世界を知ることにより、自分達に何が出来るのか考える良いきっかけとなったこと、共生社会の形成に向け、多様な学びの場を確保する必要性を強く感じたと報告があった。

・他校とのトラブルについて、4校の生活指導の教員と連携を取りながら生徒指導を行っている旨報告があった。

・薬物乱用防止教室を実施予定。講演会后、講師を交えて、CS委員、保護者、地域の方々、教員で意見交換会を開催予定であると説明があった。

委員より

Q.薬物乱用防止教室の予算について

A.区の予算で対応

Q.東京都立中央ろう学校との交流について

A.昨年度は、時間調整が上手くできたため、教育課程上での交流が可能となったが、授業時間の設定が異なるため調整が難しいと感じている。部活や生徒会、放課後の活動については、継続的に交流を行っている。

◎委員より他校とのトラブルについて

・地域のネットワークに情報を共有してもらいたい。学校側の初期対応をしっかりとってもらいたい。PTAとして何が出来るのか、探っていただきたいなど意見が出た。

第9回 1/21 火

・研究主任より、令和6年度校内研修実施報告と、令和7年度校内研修年間計画案について、説明があった。また、「杉並区 特定の課題に関する調査、意識・実態調査」(第3学年対象)の結果について報告があった。

・薬物乱用防止教室・小中連携土曜公開授業・小中合同研修会など実施されたと報告があった。

・学校評価(自己評価・学校関係者評価)について、学校運営方針(学校経営計画)の自己評価および考察について説明があった。

委員より

・学校評価アンケートについて、実施時期との関連性なのか、特に1年生にとっては、設問が答えにくいのではないかと意見が出た。

・学校運営協議会による生徒アンケートについて、先生方にご協力いただきながらGoogleフォームにて実施予定。

第10回 2/25 火

・教務主任より、学校説明会について、今年度より学校説明会を年2回とし、コロナ以前の形に戻した旨報告があった。次年度も今年度同様に実施予定である。

・学校の近況報告として、土曜公開授業・スキー移動教室(2年生)校外学習(1年生)について報告があった。

・学校関係者評価委員会にて、令和6年度学校経営方針の自己評価および考察に対する評価について承認を行った。併せて特別支援教室の教育課程についても承認を行った。令和7年度教育課程について説明があった。

第11回 3/11 火

・進路指導主任より、令和6年度進路決定状況について、説明と報告があった。

・主任教諭より、昨年度より、ユネスコスクールのキャンティデート校となり、それに伴い今年度は、本登録に向け申請書を提出したと報告があった。

・自立的・協働的な学校づくりの次年度予算配当について、向陽中・高三小・永福小が連携し、地域とともに児童・生徒を育てていく取り組みを継続する予定であると説明があった。

・令和7年度教育課程について承認を行った。

Topics!

令和6年度

学校運営協議会 生徒アンケートについて

今年度、向陽中学校学校運営協議会は生徒アンケートを実施いたしました。
その結果、教科や学校への提案、意見、要望等が出されましたので、この内容を学校側と共有し、
必要に応じて話し合い、今後の改善に向けて努めてまいります。

- 実施時期：令和6年12月2日～12月16日 ●実施方法：タブレットにて全生徒に配信し、回答フォームにて回収
- 回答状況：全学年の回答数248件（回答率83%）、学年別：1年87件（回答率85%）、2年65件（回答率77%）、3年96件（回答率82%）

アンケート結果

1 教科について

どの学年もほとんどの教科で「充実している」「どちらかといえば充実している」の肯定的な評価が合わせて90%以上を示しており、概ね良い結果と受け取っています。ただし、2年生は英語、3年生は理科と英語に「どちらかといえば充実していない」と答えた生徒が10～20%存在し、苦手意識の影響ゆえの結果であるのかどうか、学校側に検討していただきます。

2 向陽中学校の良い点や誇れる点について

※上位3項目

- ◎1年生
生徒の仲がいい／明るく元気がある／私服
- ◎2年生
明るく元気がある／助け合い・団結ができる／生徒の仲がいい
- ◎3年生
生徒の仲がいい／明るく元気がある／私服

3 向陽中学校への提案・意見、要望など

- ◎1年生
学年レクや球技大会などイベントをもっとやって欲しい／アナログな授業を増やしてほしい 等々
- ◎2年生
他学年の階にも行けるようにしてもっと交流ができるようにしてほしい／校舎の門の管理をして欲しい 等々
- ◎3年生
給食をおしゃべりしながら食べたい／生徒会の希望がな

かなか通らないので、生徒の意見を反映する機会が少ないと感じる／席替えの頻度をふやしてほしい 等々
※回答結果から一部を抜粋・編集して記載。

これらの意見を受けて、内容によっては決定までのプロセスを生徒主体で行えるよう、見直しを提言しました。また、学校側で再考が必要があると思われる項目については、その旨を要望しました。

4 家庭や地域の人たちと話す機会がありますか？

との問いについて

- ◎1年生
回答した生徒の69%がはいと答えた。
(内容)
その日にあった出来事／部活動について／授業について／地域となるとわからない 等々
 - ◎2年生
回答した生徒の67%がはいと答えた。
(内容)
学校であつた楽しいことや辛かったこと／進路について／行事のこと 等々
 - ◎3年生
回答した生徒の53%がはいと答えた。
(内容)
授業について／その日に会った事／ボランティア活動を通じて挨拶や学校生活／地域についての会話をする 等々
- 上記結果について、家庭・地域・学校の協働を考えていく上での参考にしていただければと思います。

